

科学技術高校

生徒による

いきもの記

Vol.158 2025.9.30

2年1組 千葉 美文
(科学研部生物化学班・鳥研究)

都会の荒れ地、荒川河川敷に生息 タヌキ

今年の3月に鳥専門の月刊誌『BIRDER』に、私のツミ（猛禽類）の研究を載せていただいた。それを読んでくれた方は驚くかもしれないが、私は**1年の秋ごろから荒川と江戸川の干潟でツミではなく、シギ・チドリ類の研究をしている**。面白そうなのと、地域性を生かせること、同じ研究をしているライバルがいなくて競争せずに済むことが理由だ。ライバルがいて競争するのはとても面倒くさいし、人と違う研究をすると新発見につながる。短期集中講座の時、東大院生も似たようなことを言っていた記憶がある。

さて、前置きが長くなってしまったが（このクセ直さねば,,,）、その干潟の研究のおかげで**江戸川と荒川に行く機会がかなり増えた**。江戸川は千葉県と接しているのもあって、自然がたくさんある。恐らく私が思っている10倍のいきものが生息していて、現に昆虫班の後輩ユキナガは、江戸川でキツネを見ることがあるらしい（今年のうちに探しに行くつもりである）。荒川は23区を突っ切っていて、**首都高速が川に沿って建設されているのもあって結構都会**であるし、江戸川のような田舎さは皆無だ。しかし、いきものがいないわけではなく、想像以上にいる。**哺乳類だとタヌキを見る機会が多くある**。

タヌキは日本全国に生息する日本人になじみ深い哺乳類だ。**東京の野生動物の代表であり、「ダーウィンが来た！」でも度々特集される**。干潟の研究をするまでは水元公園でしか見たことがなく、荒川でよくシーバス（スズキ）釣りをしている父が「荒川にいっぱいいるよ」と言っていたのがなんとなく頭にあっていただけであった。しかし、2024年の9月に荒川で調査をしていたら、2匹のタヌキが出てきた。そして、**同日にタヌキの頭骨も拾った**（頭骨は解剖系JKこと石堂先輩にあげた）。一瞬イヌの頭骨に見えて違法性を感じてしまうほどに、イヌ科であることにかなり実感がわいた。そして、2025年1月の調査の移動途中には**河川敷の野良ネコに与えられたエサを盗み食いするタヌキを見つけた**。荒川河川敷を自転車で走っていると、河川敷に沿っていくつかの段ボール・ブルーシート製キャットハウスが乱立しているのだが（もちろん違法）、そのうち**2つで盗み食いタヌキを見ることができた**。1頭目は疥癬（かいせん。ヒゼンダニというダニが生じさせる皮膚病の総称。）にかかった個体で、2頭目が右上写真の通り被害者のネコとセットでその場にいた。ネコはタヌキを気にせず余裕をかまして座っていたが、タヌキの方がネコと私をかなり気にしていた。両者の態度のギャップが見ていて面白かった。**笑いながらシャッターを押していた気がする**。

読者諸君は、河川敷といえば野球場やサッカー場がたくさんあるイメージを持っている人が多いと思うが、**我々いきもの屋にとっては河川敷は都会の中で貴重ないきもの宝庫である**。また、公園などと違い、**人の手が基本的に入ることがなく、都会の中で自然のままの自然が楽しめる唯一の場所**といえる。これからもそんな河川敷の自然の魅力をたくさん書いていこうと思う。



↑野良ネコのエサを食べにくるタヌキ エサを盗むにあたり、ネコの様子をうかがっている。（そして撮影者である私の様子もうかがっている。） 2025年1月に撮影



↑荒川で拾ったタヌキの頭骨



↑2匹で行動していたタヌキ 2024年9月撮影